|  |  |
| --- | --- |
| タイトル | 取扱説明書の必要性を感じていますか |
| キーワード | **取扱説明書　必要性** |
| 執筆者 | 重岡 |
| メタディスクリプション  ※検索時に出る解説文  （3行：120文字以内　序章を短縮させるとよい） |  |
| ■見出し１ |  |
| ■見出し２ |  |
| ■見出し３ |  |
| ■見出し４ |  |
| ブログの書き方  ルール | タイトル　→　「キーワード　〇〇」を**タイトルの最初に**入れること  ★序章　→　本ブログを読んでもらえるかどうかここで決まる、**イントロ。**  ■見出し→**「キーワード　〇〇」**を入れる**目標：半分以上**（見出し４つなら２つ以上）  本文　　　→　※見出しに合った内容であること  ※画面サンプルや図表は自由にいれてよい（わかりやすくなるので入れた方がいい） |
| ブログ文字数：目標 | ※上記までの約500文字は左下の文字合計マイナスすること。  ※ブログ目標文字数　2500文字から3000文字 |

序章

みなさんは取扱説明書の必要性はどんなときに感じますか。

ほとんどの人は商品の購入時に組み立て方や操作方法を見るために使用します。そして、掃除するときやトラブルが起こった際に、取扱説明書を手に取って見返すと思います。

日頃から取扱説明書を見ている人は少ないはずです。

~~2024年入社した新卒の私も商品の組み立て方や操作方法さえ分かれば取扱説明書を保管していて、取扱説明書を再度見直すことはほとんどありません。~~

しかし、取扱説明書には操作やトラブルシューティング以外にも項目があります。

本稿では「取扱説明書の必要性」について、説明します。

~~（※2024年入社の私が取扱説明書作を作成する会社に入社して感じたことをお伝えします。）~~

■見出し1

■見出し２

■見出し３

■見出し４

まず、取扱説明書には一般的に以下の項目が記載されています。

1.**製品名や型番**：製品を識別するための情報。

2.**使い方**：製品を正しく使うための手順。

3.**安全に関する注意**：使う際に気をつけるべきポイントや警告。

4.**製品の仕様**：製品の特徴やサイズ、重さなどの情報。

5.**保証やサポート情報**：保証内容やサポートを受ける方法。

6.**メンテナンス方法**：製品のお手入れやケアの方法。

7.**故障時の対応**：不具合があった場合の対応方法や連絡先。

8.**付属品や部品**：交換部品や一緒に使うものの情報。

ダイアグラム

低い精度で自動的に生成された説明

~~多くの人は序章でも述べた通り、組み立て方や操作方法を知るために取扱説明書を見ていると思います。~~

使い方だけでなく、故障時の対応、保障やサポート情報も記載されています。

日本では、製造物責任法(PL法)や消費者安全法などにより、安全に関する情報提供義務があります。

取扱説明書の安全に関する注意を読み、適切に使用することで、怪我や誤作動のリスクを減らすことができます。

「取扱説明書はユーザーを守るためにある」ということです。

製品を購入すると冊子のような取扱説明書が付いてあることが多いです。

しかし、海外の電化製品についてはどうでしょうか。

ネットで買い物が手頃にできる時代であり、「あまり商品の詳細を見ずに購入してしまい、届いた商品を見てみると海外の製品だった」なんてことはあると思います。

海外の製品を購入した際に、日本と同じように取扱説明書が厚い冊子の取扱説明書ではなく、クイックガイドと呼ばれる簡易的な取扱説明書が付いています。

クイックガイドにはスマートフォンやPC、タブレットなどの初期設定方法を記載し、詳細についてはQRコードを読み取り、webのデジタルマニュアルを見るようになっています。

取扱説明書と聞くと紙のイメージがどうしてもありますよね。紙でしか情報が得られなければ紙の取扱説明書を見る必要があります。しかし、「紙の取扱説明書がないから操作方法や分解方法、エラーの意味が分からない」といった焦りが発生する人は少ないはずです。

そうです。現在ではインターネットを使って、製品名や型番を検索することで、製品の操作方法や組み立て方、分解方法などを簡単に確認できるからです。

型番については製品に書いてあることが多いため、すぐに検索することができます。また、全く同じ製品の型番がない場合でも、旧製品の取扱説明書が検索にヒットすることがあります。

旧製品については取扱説明書がほとんど変わらないことがあります。

そんなこともあり、紙の取扱説明書の必要性は低くなっています。しかし、web版の取扱説明書は必要性が高いかもしれません。

紙の取扱説明書の保管場所を知っていても、webで調べる人の方が現在では多いはずです。

紙の取扱説明書では目次を見て、操作方法のページを探します。

しかし、webの場合は「操作方法」と検索エンジンに入れて検索することで、操作方法のページをすぐに見ることができます。サイトによってはPDFで取扱説明をダウンロードしますが、その場合でも検索機能や目次の項目をクリックすることにより、すぐに見たいページを閲覧することができます。

紙を保管場所で見つけることよりもインターネットで検索することの方が素早く情報を見つけれる場合があります。

デジタルマニュアルのメリットとしては

・シンプルで分かりやすい

・印刷するコスト、ペーパーレス化によって環境配慮

-シンプルで分かりやすい

最低限の情報だけが乗っているため、短期間でセットアップができます。

また、イラストが多く使われており、見やすく、理解しやすいです。

スマートフォンなどの直感的に操作できるものは、「とりあえず動かしたい！」という人にとっては、短い説明で分かりやすいクイックガイドが向いています。

-印刷するコスト、ペーパーレス化によって環境配慮

冊子の取扱説明書である場合は、印刷するコストがクイックガイドに比べると大きく変わります。

紙のマニュアルのメリットとしては

・すぐに見られる(電源不要・オフラインで使える)

・デジタル機器に不慣れな人でも使いやすい

・必要な部分に直接メモを書き込める

-すぐに見られる

災害・緊急時に、デジタル機器が使えない場合でも見ることができます。

-デジタル機器に不慣れな人でも使いやすい

デジタル版はスクロールや検索が必要となりますが、紙のマニュアルではページをめくるだけでOKです。故障のトラブル対応をすぐに調べたいときは、紙のマニュアルであれば速いかもしれません。

-必要な部分に直接メモを書き込める

直接メモを書き込めるため、印や色等をつけることで使いやすくなります。

デジタル化社会になっている現在では、取扱説明書だけではなく、動画を視聴して使い方を見る時代になっています。

動画では実際に動作を確認できるため、長い文章を読まなくても理解できます。

また、分からない部分に関しては動画の再生を停止し、必要であれば再度分からない部分から視聴すれば動画の通りに操作ができます。

**結論**

取扱説明書の必要性について述べてみました。

取扱説明書は「ユーザーを守る」ための安全ガイドであり、クイックガイドであっても、デジタルマニュアルには必ず安全に関する注意の項目があります。

ダイテックでは製造業のマニュアル作成改善を検討する際に、考慮すべきポイントをまとめた入門資料「安心と安全をカバーするマニュアルづくり　３つのポイント」「なぜ読むマニュアルから『見る3Dマニュアル』が増えているのか？わかるガイド」をご用意しました。本資料は、マニュアル作成改善をしたい方には必見の資料です。ぜひダウンロードいただき、ご覧ください。